

## 学校再開の動き

沖縄県浦添市 市立の全 16 小中学校で、13 日までの休校期間を 10 日までに短縮

【理由】家庭の負担、子どもたちの学業・心理的ストレス、学童保育所の過密さ

- ・家庭の負担増に加え、沖縄県内の感染者が 2 月 20 日から増えていないこと、学校に代わる学童保育の施設が狭いことなどを総合的に判断した。
- ・同市の学童保育所「神森どんぐり児童クラブ」は、開所時間を放課後から午前 7 時半に繰り上げ、手洗いや換気、検温を徹底して児童を受け入れている。
- ・兼本絹枝主任は「接触を制限できない。感染防止には（広い）小学校の方がいいのかもしれない」と話す。

【感染防止策】

- ・手洗い・うがい・アルコール消毒。室内の十分な換気を図りながら感染予防を行っていく

栃木県茂木町 休校措置なし（町立小中学校の全児童生徒 746 人）

【理由】次の 3 点から、子どもの健康と安全には学校が最適と判断

- ・小さな子どもたちに感染のリスクが高いと言われる中、保育園・幼稚園が通常通り運営されていること
- ・臨時休業となった場合、保護者の仕事の関係等で家庭によっては子どもたちだけで過ごさなければならない状況が発生しうること
- ・通常授業が実施されれば、安全に配慮した形で子ども達へ給食（昼食）を提供することができること

【感染防止策】

- ・安全指導（手洗い、うがい、換気等）を徹底して学校生活をおくることができるように努める。

佐賀県 県立中学や高校、特別支援学校を 16 日に再開

（県内の全ての市町の小中学校も同様の対応をとる見通し）

○県立学校では給食を提供し、部活動も行う。ただ、春休みに入るまで、対外試合の自粛や練習時間の短縮など最小限の活動にとどめる。

【理由】(1)自宅待機の長期化に伴う子どもの心身への影響を考慮

(2)県内では感染者が確認されておらず、九州の感染も散発的で拡大している状況にない（今後、県内で感染が確認されれば方針を修正する可能性あり）

【感染防止策】

- ・登校前の自宅での検温を指導し、軽い風邪症状（のどの痛みだけ、咳だけ、発熱だけなど）でも登校させないことを徹底する。  
教職員も同様
- ・手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染症対策、教室等のこまめな換気を徹底する。
- ・学校再開後から春休みまでの間は、保護者等が感染予防のため子どもを登校させない場合は、欠席扱いとしない。